

法遍寺 から大切な 皆様へ

2022年6月1日

日蓮正宗 年間方針

報恩躍進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

常に明るく正直な生活

年間実践テーマ

①真剣な勤行・唱題で
歓喜の行動

苦難を開く

勤行・唱題

②僧俗一致の折伏で広布
へ躍進

諦めず

最後まで

③御報恩の登山と寺院参
詣で人材育成渴仰恋慕・朝夕の勤行
家庭訪問・寺院参詣・

支部総登山

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2022年5月8日の御報恩御講の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ「仏道の原点はお給仕の姿勢にあり」

「法華経を我が得しことは 薪こり菜つみ水汲み仕えてぞ得し」という古歌がある。妙法の信仰は、唱える以外にも実は重要な要素がある。「身口の二業は意業より起こる」(御書1751)と仰せのように、信仰とは心(意)の領域であると同時に、口と身による行体の実践によって信が成立し功德となるのである。法華経には、釈尊が過去世に王位を捨て、阿私仙人に対し千歳という長時にわたる給仕をなし、その功德で仏となったことが説かれる。大聖人はこれを釈され、妙法を唱える所に千歳給仕(せんざいきゅうじ)の徳が生じ、煩惱浄化の実証があると仰せである(御書1757)。勤行や唱題がその人の迷妄を開き、奉仕や給仕の心となって表われるからだ。我々の千歳給仕とは、御宝前を清め明朗なる勤行・唱題に努め、寺院を念い参詣と厳護をなし、広布をめざし確信の折伏を実践することであろう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その22)

昭和55年8月の第五回檀徒総会に出席した正信会僧侶に対し宗門は、宗制宗規による住職罷免等の処分を行なった。日頭上人は、この処分に関し学会が誤った認識をもたないよう、昭和55年11月26日の「創価学会創立50周年記念幹部登山」の折、「今回の僧侶の処分に関して」創価学会を攻撃、誹謗する僧侶たちが処分されたのは、創価学会に誤りがなかった証拠であり、指導者にも誤りなどなかった「などと言ってはなりません。それは、いわゆる昭和53年6月30日、同年11月7日などの一連の発表にあらわれているように、過去において逸脱があつて、これを反省し、是正したことは事実であります」と、学会を訓戒された。処分を受けた正信会の矛先は宗門に向けられた。この徒輩は処分に反発し、御法主上人に弓を引いたのであつた。(次回 正信会僧侶への擯斥処分)

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(彼岸の意味を考える)

世の中に「彼岸」の意義が浸透していないことは、仏教が社会的習慣のなかで形骸化した証拠である。「彼岸」は正式には「到彼岸」といい、「度(わたる)」という意味で、生死輪廻の迷いの此の岸から、解脱・涅槃の彼の岸に到達することをいう。方便を持たない仏の本懐たる法華経は「即身成仏」を説く。つまり成仏ということは、極楽浄土でなく、身土不二の原理に基づく現実世界の心身の有り様、つまり生命体の救済をいうのである。生きている我々自身が即身成仏し、この現実の世界で幸福を得る(彼岸に到る)ことが重要であり、その功德を先祖や亡者(精霊)の追善供養として回向することの必要を「彼岸」は教えているのである。この信心は過去からの因果の流れをも変えるのである。真実の積功はうらぎらず累徳の人生となることを知って頂きたい。